



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学物質等の名称	N-メチルアニリン
製品コード	MA
会社名	株式会社 三星化学研究所
住所	京都市北区上賀茂北ノ原町 14 番地
担当部門	開発・技術部
電話番号	075-781-1177
緊急連絡電話番号	075-781-1177
FAX 番号	075-701-7227
推奨用途及び使用上の制限	本物質の主な用途は、有機合成、各種染料、ゴム薬、農薬、医薬。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性又は引火性ガス	分類対象外
可燃性又は引火性エアゾール	分類対象外
支燃性又は酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分 4
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性化学品	区分外

健康有害性

急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性及び刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない

生殖細胞変異原性
 発がん性
 生殖毒性
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
 吸引性呼吸器有害性
 環境有害性
 水生環境有害性 (急性)
 水生環境有害性 (長期間)
 オゾン層への有害性
GHS ラベル要素
 絵表示又はシンボル

分類できない
 分類できない
 分類できない
 区分 1(腎臓、血液)
 区分 2(神経系)
 区分 3(気道刺激性)
 区分 1(血液)

 分類できない

 区分 2
 区分 2
 分類できない



注意喚起後
 危険有害性情報

危険
 可燃性液体
 飲み込むと有害
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 血液系、腎臓の障害
 神経系の障害のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 長年にわたる又は反復ばく露による血液系の障害
 水生生物に毒性
 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き
 安全対策

炎及び高温のもののような着火源から遠ざけること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後は手をよく洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 環境への放出を避けること。

応急措置

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

	と。 眼の刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 と。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。 漏出物は回収すること。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
廃棄	施錠して保管すること。 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	N-メチルアニリン(N-Methylaniline)
別名	N-メチルアミノベンゼン(N-Methylaminobenzene) N-メチルフェニルアミン(N-Methylphenylamine) N-フェニルメチルアミン(N-Phenylmethylamine) N-メチルベンゼンアミン(N-Methylbenzenamine) メチルフェニルアミン(Methylphenylamine) モノメチルアニリン(Monomethylaniline) アニリノメタン(Anilinomethane)
化学式	C ₇ H ₉ N
CAS 番号	100-61-8
官報公示整理番号（化審法・安衛法）	(3)-106
濃度又は濃度範囲	98.5%以上

4.応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性
症状

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
吸入した場合：顔面、口唇、爪などのチアノーゼ（紫色化）、
咳、めまい、息苦しさ、頭痛、咽頭痛。（チアノーゼは血中
にメトヘモグロビンが形成されたことによる。）陽気な興
奮、激しい頭痛、悪心、倦怠感、吐き気、嘔吐、衰弱、め
まい、心臓律動障害、のどの渇き、膀胱刺激、血尿。重篤
の場合は、意識混濁、昏睡に陥り、けいれんを起こす。
皮膚に付着した場合：発赤、痛み。皮膚吸収の可能性あり。
眼に入った場合：発赤、痛み。

最も重要な兆候及び症状

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水
大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火
剤、散水

使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

棒状注水
可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するお
それがある。

特有の消火方法

散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合
には散水する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器内に水を入れてはいけない。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース
保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用
する。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具
及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す
る。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（8.ばく露防止措置及び保護措置の
項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避
ける。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるい
は漏洩物に触れてはいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不
浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所は換気する。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意す
る。
環境中に放出してはならない。

環境に対する注意事項

回収、中和

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆

封じ込め及び浄化の方法・機材
二次災害の防止策

って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
危険でなければ漏れを止める。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花
や火炎の禁止）。
容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行
い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体
換気を行う。

安全取扱い注意事項

火気注意。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換
気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

接触回避

保管

技術的対策

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不
燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その
他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構
造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするととも
に、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける
こと。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要
な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触危険物質

保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。
炎及び熱表面から離して保管すること。
冷所、換気の良い場所で保管すること。
酸化剤から離して保管する。
施錠して保管すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用す
る。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物
学的ばく露指標）

日本産衛学会（2006年版）

設定されていない。

ACGIH（2006年版）

TLV-TWA 0.5ppm Skin;BEI_M

設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱取扱いで、工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など	無色あるいはわずかに黄色の油状液体 ¹⁾
臭い	刺激性
pH	データなし
融点・凝固点	-57°C(融点) ¹⁾
沸点、初留点及び沸騰範囲	194-196°C ¹⁾
引火点	83°C(弊社測定データ、クリーブランド解放式)
爆発範囲	データなし
蒸気圧	39.9 Pa(20°C) ¹⁾
蒸気密度(空気=1)	3.7 ¹⁾
比重(密度)	0.99 ¹⁾
溶解度	溶けない(水) ¹⁾ 。アルコール、エーテルに可溶。
オクタノール/水分配係数	logPow=1.7 ¹⁾
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	該当しない
粘度	データなし

10.安定性及び反応性

安定性	常温、空气中比較的安定な物質である。 加熱や燃焼により分解し、有毒なフェーム(アニリン、窒素酸化物など)を生じる。 ¹⁾
危険有害反応可能性	この物質は無機酸類及び酸素に富む物質(強酸化剤)と接触又は混合する場合、激しく反応する。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	無機酸類及び酸素に富む物質(強酸化剤)。 銅、銅化合物及び一連の合成物質はこの物質の腐食作用を受けるので容器として適さない。ある種のプラスチックを侵す。
危険有害な分解生成物	アニリン、窒素酸化物。

11.有害性情報

急性毒性	経口：ラットを用いた経口投与試験のLD50=716 mg/kg、
------	----------------------------------

	782 mg/kg ²⁾ のうち、小さい方の値に基づき、区分4とした。
	飲み込むと有害（経口）
	経皮：データなし
	吸入（蒸気）：データなし
皮膚腐食性・刺激性	ヒトへの疫学事例に「皮膚刺激性を有す」 ²⁾ とあるが、刺激の程度が不明であるため、区分2-3とした。安全性の観点から区分2とする方が望ましい。
	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ヒトへの疫学事例「蒸気やミストは眼、粘膜、上気道に対しても刺激性を示すとされる。」 ²⁾ や、ICSC (1994)の「発赤、痛み」という記述から、眼に刺激を与えるものと考えられるが、刺激の程度が不明のため、区分2A-2Bとした。細区分の必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。
	強い眼刺激
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	in vivo 変異原性/遺伝毒性試験データがなく、in vitro 変異原性試験の2つ以上の指標で陽性結果がないため ^{2), 3), 4)} 、分類できない。
発がん性	毒性情報はあがるが既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類できないとした。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ヒトについては、「蒸気やミストは眼、粘膜、上気道に対しても刺激性を示す」 ²⁾ 等の記述、実験動物については、「自発運動低下、流涎、腹臥位、側臥位、全身性筋攣縮及び体温低下、チアノーゼ、褐色尿」 ⁴⁾ 、「アルブミン尿症、チアノーゼ」 ²⁾ 等の記述があることから、気道刺激性をもち、神経系、血液系、腎臓が標的臓器であると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、血液系、腎臓への影響が区分1、神経系への影響が区分2に相当するガイドランス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1（血液、腎臓）、区分2（神経系）、区分3（気道刺激性）とした。
	腎臓、血液の障害
	神経系の障害のおそれ
	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	実験動物については、「チアノーゼ、ヘマトクリット値、ヘモグロビン量及び赤血球数が低値、網赤血球率が高値を示し、」 ⁴⁾ 等の記述があることから、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイドランス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1（血液系）とした。
	長期又は反復ばく露による血液の障害

吸引性呼吸器有害性

データなし

12.環境影響情報

水生環境有害性（急性有害性）

甲殻類（オオミジンコ）による 48 時間 EC50=5.58 mg/L であることから、区分 2 とした。

水生環境有害性（長期間有害性）

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BOD による分解度：1.4%）、甲殻類（オオミジンコ）の 21 日間 NOEC = 0.29 mg/L⁵⁾ であることから、区分 2 となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BOD による分解度：1.4%）、魚類（メダカ）の 96 時間 LC50 = 57.5 mg/L であることから、区分 3 となる。以上の結果を比較し、区分 2 とした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国際規則

海上規制情報

IMO の規定に従う。

UN No.

2294

Proper Shipping Name

N-METHYLANILINE

Class

6.1

Packing Group

III

Marine Pollutant

該当する。

航空規制情報

ICAO/IATA の規定に従う。

UN No.

2294

Proper Shipping Name

N-Methylaniline

Class

6.1

Packing Group

III

国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

毒劇法の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号

2294

品名

N-メチルアニリン

クラス

6.1

容器等級

III

海洋汚染物質	該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	2294
品名	N-メチルアニリン
クラス	6.1
等級	III
特別の安全対策	危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起ささないように運搬すること。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 移送時にイエローカードの保持が必要
緊急時応急措置指針番号	153

15.適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法)	第2種指定化学物質
毒物及び劇物取締法	劇物
大気汚染防止法	有害大気汚染物質
消防法	第4類引火性液体 第三石油類非水溶性液体 危険物等級 III
船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法)	法第2条第1項1号イ号に規定するもの
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第2の35の2項
海洋汚染防止法	有害液体物質 (Y類物質)

16.その他の情報

参考文献

- 1) ICSC(2006)
- 2) CERL ハザードデータ集 2001-2 (2002)
- 3) NTP DB (Access on Mar., 2006)
- 4) 厚労省報告 (1996)
- 5) 環境庁生態影響試験, 1996、環境省リスク評価第12巻, 2014

<記載内容について>

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評

価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してください。なお、注意事項については通常の手扱いを対象にしたものですので、特別な取扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。